



平成 28 年 6 月 14 日

各 位

会 社 名 株式会社メガネスーパー
 代表者名 代表取締役社長 星崎 尚彦
 (JASDAQ・コード3318)
 問合せ先
 役職・氏名 執行役員CFO 三井 規彰
 電 話 0465-24-3611 (代表)

業績予想と実績との差異および特別利益並びに特別損失の計上に関するお知らせ

平成 27 年 6 月 12 日に公表いたしました平成 28 年 4 月期（平成 27 年 5 月 1 日～平成 28 年 4 月 30 日）の通期業績予想と実績との間に差異が生じたのでお知らせいたします。

また、平成 28 年 4 月期 通期業績において特別利益および特別損失が計上いたしますので、あわせてお知らせいたします。

記

1. 平成 28 年 4 月期（平成 27 年 5 月 1 日～平成 28 年 4 月 30 日） 通期業績予想と実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 16,600	百万円 760	百万円 630	百万円 440	円 銭 7.09
実績 (B)	15,707	523	421	260	2.51
増減額 (B - A)	△892	△236	△208	△179	
増減率 (%)	△5.4	△31.2	△33.1	△40.7	
(ご参考) 前期実績 (平成 27 年 4 月期)	14,291	△810	△987	△1,487	△25.25

2. 差異発生理由

当社はこれまで事業再生に取り組んでまいりましたが、「目から元気に！」を基本コンセプトに、単に眼鏡・コンタクト等の販売にとどまらず、「眼の健康寿命」に配慮した商品・サービスやアドバイスを提供することにより競合他社との差別化を図るとともに、お客様からの信頼獲得に努めてまいりました。

そのような中で、「アイケア重視のサービス型店舗モデル」への転換が順調に進展しているほか、平成 27 年 6 月 12 日公表の中期経営計画（平成 28 年 4 月期～平成 30 年 4 月期）に基づく重点施策を着実に実行した結果として、粗利率の上昇や損益分岐点に著しい改善がみられるなど、事業再生における取り組み成果の発現により、平成 28 年 4 月期におきましては、平成 19 年 4 月期以来 9 期ぶりの黒字転換を果たしております。

しかしながら、個人の消費動向や売上高の季節変動における影響により売上高が前回発表を若干下回る結果となりました。また、売上進捗に比して新規出店等に伴う賃料や人件費の増加したこと等により、営業利益、経常利益は前回発表を下回る結果となり、次頁以降で記載した特別利益および特別損失の計上により当期純利益も前回発表を下回る結果となりました。

3. 特別利益の計上について

店舗の賃貸借契約を家主都合で解約したことに伴い立退料収入として 16 百万円、投資有価証券の売却に伴う投資有価証券売却益として 9 百万円、第三者が取得した当社債権の買戻しに伴う債務消滅益 101 百万円等を主たる要因として、当平成 28 年 4 月期における特別利益は 127 百万円となりました。

4. 特別損失の計上について

当社が保有する売却予定資産について、将来の回収可能価額を検討した結果、一部の売却予定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、平成 28 年 4 月期第 4 四半期において減損損失 74 百万円を計上することといたしました。

また、閉鎖を行った店舗の建物（建物付属設備（内装工事費含む）等）を固定資産除去損として 8 百万円、賃貸借契約の中途解約に伴う敷金保証金の違約金等の閉鎖費用を店舗構造改革費用として 5 百万円、訴訟関連費用として 9 百万円等を主たる要因として、当平成 28 年 4 月期における特別損失は 105 百万円となりました。

以上